

原木シイタケ栽培における伐採・玉切り時期の研究

林業研究部・きのこグループ

1. 研究の背景

原木乾シイタケ栽培では、適期(11月)に伐採し、葉枯らし期間(40～60日)を設けた後に玉切りする作業スケジュールを推奨しているが、分業化や機械化などを促進するためには、従来の作業スケジュールの検討が必要である。そこで、適期以外に伐採・玉切り作業を行う試験区を設け、菌糸蔓延率^(注1)と発生への影響を調査した。また、伐採後、即玉切りした原木(以下、「即玉原木」という。)について、水分管理方法を検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・ 適期より早く玉切りすると、菌糸蔓延率及び発生量は減少した(図1)。
- ・ 適期外の伐採で菌糸蔓延率は低下したが、1年目の発生量は、適期より早い10月下旬に伐採すると増加し、適期より遅く伐採すると減少した(図2)。
- ・ 11月の即玉原木は、植菌前に散水管理^(注2)を行うことで、菌糸蔓延率が適期原木と同程度になるほか、1年目の発生量が改善された(図3)。



図1 玉切り時期が発生量及び菌糸蔓延率に及ぼす影響

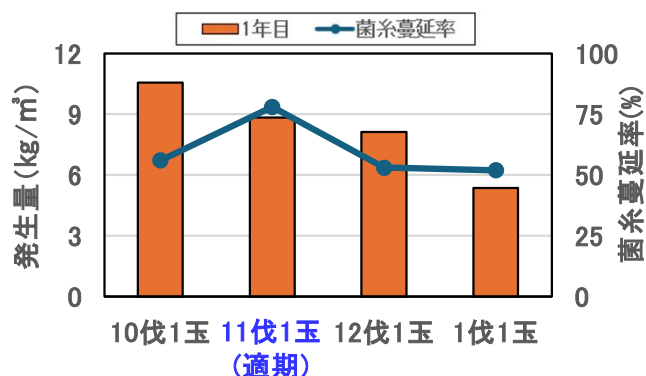


図2 伐採時期が発生量及び菌糸蔓延率に及ぼす影響

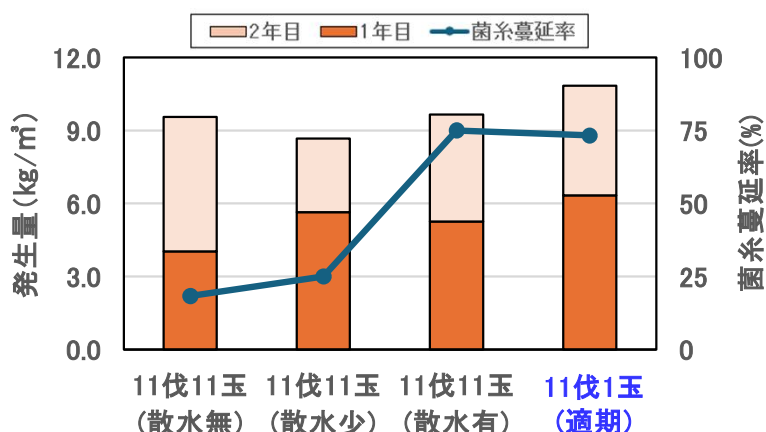


図3 玉切り後の散水管理が発生量及び菌糸蔓延率に及ぼす影響

(注1) 菌糸蔓延率: 材表面菌糸蔓延率
(植菌年の10～11月に調査)

(注2) 「散水少」: 2週に1回

「散水有」: 週1回

※散水時間は2時間/回

3. 期待される効果

- ・ 早期伐採や即玉切原木への散水管理により、発生量減少を改善できる可能性が示唆された。引き続き調査を行い、ほだ木生涯収量への影響等について明らかにしていく。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター林業研究部 きのこチーム

住所: 大分県豊後大野市三重町赤嶺 2 3 6 9

電話: 0 9 7 4 - 2 2 - 4 2 3 6